



新しい学校づくり検討会先進地視察

みんなで小中一貫校を見てきました



10月から始まった市民のみなさんと新しい学校をつくるための検討組織「新しい学校づくり検討会」。今回はその委員のみなさんと令和2年に開校した小中一貫校を視察してきました。

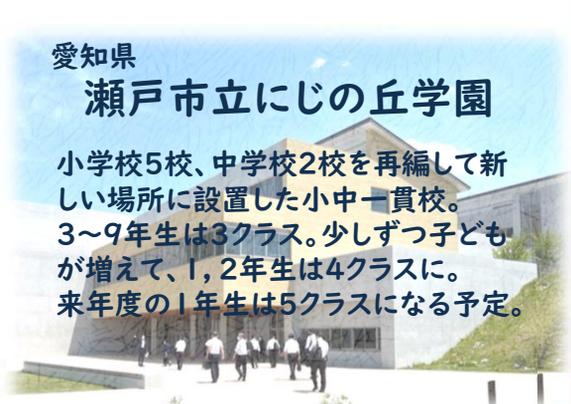
文部科学省が示すこれからの時代の学校の姿は、学校全体を学びの場として、廊下、階段、校庭などすべてが学びの場、教育の場、表現する場、心を育む場としていくことが示されています。

今回、視察した愛知県瀬戸市立にじの丘学園は、市民意見を取り入れてつくった施設一体型小中一貫校で、先進的な考え方が施設の随所に現れている学校です。

愛知県

瀬戸市立にじの丘学園

小学校5校、中学校2校を再編して新しい場所に設置した小中一貫校。3~9年生は3クラス。少しずつ子どもが増えて、1、2年生は4クラスに。来年度の1年生は5クラスになる予定。



なんでこんなに広いのかと思ったけれど、子どもたちの交流や発表の場としても利用しているって聞いてなるほどと思った。委員A

中央階段は通常の3倍の広さ



校舎の中心には図書館。休み時間は子どもたちの交流の場にも。

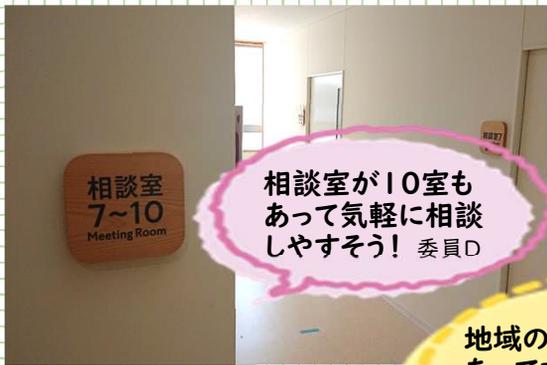


地域の人も図書を利用できると聞いた。牧之原もそうしたいな。委員B



明るい！廊下が広い！ゆとりスペースがたくさんあるのが子どもが楽しめている！委員C





相談室が10室もあって気軽に相談しやすそう! 委員D



校内にある電子ピアノは各小学校から持ってきたんだって! 昇降口にあるピアノは、朝子どもたちを出迎えの際に地域の人が弾いてくれていると聞いて素敵だなと思った! 委員E



地域の人が活動できる場所があってすごく広い! 冷蔵庫もトイレもあっていいな〜。外からも入れるのがgood! 委員F



校舎内外に交流できる仕掛けがたくさんある!



キーワードは「未来志向」! 委員H



今の小学校がいいと思っていたけど、新しい学校を見たらこんな学校で学ばせたいと思った! 委員I



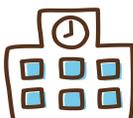
せっかくだからみんな楽しんでながらつくりたいね! 委員L

百聞は一見に如かず! 疑問や不安がなくなった。委員G

知らなくて不安に思っている人も実際に見ると不安がなくなると思う。伝えられるといいなあ。委員J

これを参考に牧之原市に合ったさらにいい学校にしよう 委員K

参加委員の意見 (全体)



新しい学校づくり豆知識! 教室の大きさはどうなっているの?

時代とともに生活様式が変わっていますが、学校は一度建てるとなかなか変えることは難しい現状があります。例えば、教室のサイズです。

- ・日本の小中学校の教室平均 64㎡
- ・旧基準 63㎡ 7m×9m(昭和25年のモデルプラン)
- ・新基準 74㎡(昭和48年からの国庫補助基準面積)

新基準が出されても変更ができず、多くの学校は旧基準で建てられたままのサイズで、当市の教室も同様です。

近年、さらに広い教室サイズが求められています。その理由は大きく3つです。

- ①教科書サイズの拡大による学習機の基準サイズの拡張
 - ②ICT機器の使用
 - ③ソーシャルディスタンスの確保
 - ④個別最適な学び・協働的な学びへの対応
- 新しい学校では、これからの学びに対応したスペースの確保も考えていきます。



教室と多目的スペースが隣接した空間のイメージ図

※令和4年3月策定「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告書より

新しい学校づくり検討会は、令和4・5年度の2年間を予定しています。多くの方の意見を反映した学校をつくるために、さまざまな形で意見を聞きながら進めていきます。

これまでのかわら版はこちらから

